

尻屋漁業研究会「磯根資源調査」を実施



調査の準備をする尻屋漁業研究会員



採集された磯根資源の計測風景

6月7日(木)、尻屋漁業研究会(濱端元一会長)主催による「磯根資源調査」が行われました。この調査は、昭和36年に地方独立行政法人青森県産業技術センター水産総合研究所からコンブ増殖にかかわる技術指導を受けたことを端緒に始まった歴史ある調査です。同研究会、水産総合研究所、むつ水産

事務所、村が協力して、毎年6月に磯の各地点でコンブ、ウニ、アワビなどの磯の水産物を採集し、その資源量や資源状態を把握し、環境に考慮した増殖方法を検討してきました。平成27年のコンブの豊漁以降、尻屋の磯はキタムラサキウニの密度が増えており、磯焼けが進行しつつあります。今年の調査では、尻屋藻場保全の会が行っているウニ駆除活動の効果もあり、ウニの密度は昨年よりも低下していました。昨年から同時に始まったコンブ立縄生育状況調査では、立縄上にコンブが順調に生育しているのが確認され、ウニが減少すればコンブがさらに生育できるようになることが分かりました。継続したウニ駆除活動、コンブ資源増殖のための立縄設置によって、尻屋の磯がコンブで生い茂る磯になることを願っています。磯焼けを防止するために尻屋漁業研究会では効果的な磯焼け対策のアイデアを求めています。

～ 給食でひがしどおり牛を食べたよ ～



「全員でいただきます!」小学2年生の子どもたち



ひがしどおり牛を使用した「ハヤシライス」

学校給食では、日頃から村内・県内の産物(ふるさと産品)を取り入れ、地産地消に取り組んでいきます。青森県では、6月と11月の食育月間に合わせ「ふるさと産品消費県民運動」を実施し、東通村もふるさと産品を積極的に取り入れていきます。これによって、ふるさと産品の愛用意識高揚、利用拡大を通じた児童生徒の健全な食生活の実現、そしてふるさとを誇りに思う心の醸成を目指しています。6月18日(月)は、これによって、ふるさと産品の愛用意識高揚、利用拡大を通じた児童生徒の健全な食生活の実現、そしてふるさとを誇りに思う心の醸成を目指しています。青森県では、6月と11月の食育月間に合わせ「ふるさと産品消費県民運動」を実施し、東通村もふるさと産品を積極的に取り入れていきます。これによって、ふるさと産品の愛用意識高揚、利用拡大を通じた児童生徒の健全な食生活の実現、そしてふるさとを誇りに思う心の醸成を目指しています。6月18日(月)は、これによって、ふるさと産品の愛用意識高揚、利用拡大を通じた児童生徒の健全な食生活の実現、そしてふるさとを誇りに思う心の醸成を目指しています。

東通村広葉樹林の育み環境保全事業について

東通村では、広葉樹林の持つ多面的機能が持続的に発揮できる森林整備や土砂流出防止等災害に強い森林整備を推進するため、広葉樹林の造成に要する経費に対し、予算の範囲内において補助金を交付します。

★事業の種類

- 環境整備費(作業路整備費、整地等、下刈り・枝払い等の燃料費)
- 資材費(機械・器具、苗木購入費)
- 資材等運搬費(運搬費(作業用資材等の運搬経費))

★【補助額】 170,000円 以内

★補助対象者

- 村内に森林を有し、広葉樹林の造成に係る苗木の植栽及び管理に要する事業を主催する村内の地域団体。

★申請方法等

- 申請の希望がある団体は、補助希望状況を把握する必要がありますので、平成30年9月末日までに東通村つくり育てる農林水産課農林振興グループまでご連絡ください。

<問い合わせ先>

東通村つくり育てる農林水産課 農林振興グループ ☎27-2111 (内線131)